



## 子ども達の笑顔あふれる学校を目指して

校長 野村 洋介

1月21日(火)に「笑顔と学びの体験プロジェクト」で子ども達は、落語、手品、テツ and トモのトークショーを見ました。子ども達の様子をずっと見ていましたが、子ども達の顔には笑顔があふれていました。当初は、6年生のみでと考えていましたが、せっかくの機会なので全校で見えるようにしました。全校の子ども達が笑顔で過ごすことができ本当に良かったと思っています。学校は、子ども達にとって楽しい場所であってほしいと常に思っています。楽しい場所である証が、子ども達の笑顔であると考えています。子ども達の笑顔があふれる機会をこれからも増やしていかなければいけないと強く感じました。保護者の方にも参加してもらえないかと考えましたが、会場の関係で見ていただくことができず大変申し訳なく思っています。子ども達と保護者の方が一緒になって笑顔になる機会を今後設けていきたいと考えています。

500人以上いる学校なので、人間関係の中で時には嫌な思いをしてしまう子どももいます。嫌なことを抱えている子どもの顔からは笑顔が消えてしまいます。そのような状況に一刻も早く気づき、対応していくことが何よりも大切です。毎月行っている「心のアンケート」や年3回の子どもと担任との個人面談、保護者の方から情報をいただく「子ども見守りシート」などの取組も子ども達が抱えている不安や悩みいち早く気付くためのものです。気付けば学校は、全力で子どもを守る取組を行います。しかしながら気付くことができなければ対応することができません。教職員には、子ども達一人一人の様子をよく見、寄り添った指導を行うようにと常に言っていますが、500人以上の子ども達全員の様子に教職員だけで気付くことは非常に難しいです。そのためご家庭にも協力をお願いしています。ご家庭でお子様の様子に少しでもおかしいなと感じた際は、ご遠慮なく学校に連絡してください。その情報が、子ども達の不安や悩みの早期発見につながります。よろしくお願いします。

毎月行っている「心のアンケート」において気になっていることがあります。いじめの認知件数ですが、今年度は1月までで故意に相手に行った案件66件、故意でなく相手が嫌だと感じた案件80件で合計146件となっています。故意に相手に行った案件については、全てご家庭に連絡し対応を行いました。昨年度は、1月までで故意に相手に行った案件136件、故意でなく相手が嫌だと感じた案件140件、合計276件でした。いじめの認知件数が大きく減っています。子ども達の人間関係が良い方向に向かっていて認知件数が減少しているのであればよいのですが、アンケートが形骸化していて書かなくなっていることが心配されます。毎月行うアンケート調査には、形骸化して書かなくなるという課題があります。学校全体で現在の状況を検証し、「心のアンケート」の意義を再度子ども達に伝えることや実施方法等について検討していきます。「心のアンケート」の記載内容については、書いた子どもが不利益にならないよう最大限に配慮して対応しています。何かあれば「心のアンケート」に書いていいとご家庭からもお子様に伝えていただければ嬉しいです。